

母乳栄養法と、これらをめぐる因子との関係

研究協力者（独協大・医） 橋口 精範

1. 研究の目的

われわれは、ひきつづいて新生児期、乳児期における栄養法がどのように行なわれているかを産後まもなくから数カ月にわたっての実態を調査してきている。

また、乳児の罹患率が、新生児期の栄養法と関係がないかどうかをみている。

また、授乳期における母乳の分泌量と、乳房の型、生下時体重との関係がないかもしらべてみている。

さらに母乳分泌の状態と、産後の月経再潮との関係をみている。

2. 調査成績

1) 乳児の栄養法

独協医大病院、栃木市、鹿沼市、日光市周辺の褥婦について、産後まもなくから、産後4カ月にわたって、その実態についてみた。その各々によって数値のひらきはみられるが、産後数カ月にわたって、母乳を出すよう努力していることはみられる。

2) 乳児の栄養法別による罹患率

乳児検診、3才児検診に、乳児期の栄養法と罹患状態についてみたが、消化器系疾患では母乳栄養児には少ないことがみられる。

3) 母乳分泌量と乳房の型

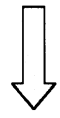
妊娠中、産後の乳房の型と母乳分泌量をみると、産後の乳房の型、つまり乳腺の発育の度合と、母乳分泌量との間には関連性がみられる。

4) 母乳分泌量と低体重児

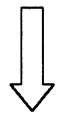
低体重児の母親からの母乳分泌量は少ないことがみられる。これは児の吸引力に関係するものと思われる。

5) 母乳分泌と産後の月経の再潮

乳児が母乳栄養法をとっている母親は人工栄養児のそれよりも、産後の月経の再潮が遅いことがみられる。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1. 研究の目的

われわれは、ひきつづいて新生児期,乳児期における栄養法がどのように行なわれているかを産後まもなくから数カ月わたっての実態を調査してきている。

また,乳児の罹患率が,新生児期の栄養法と関係がないかどうかをみている。

また,授乳期における母乳の分泌量と,乳房の型,生下時体重との関係がないかもしらべてみている。

さらに母乳分泌の状態と,産後の月経再潮との関係をもみている。